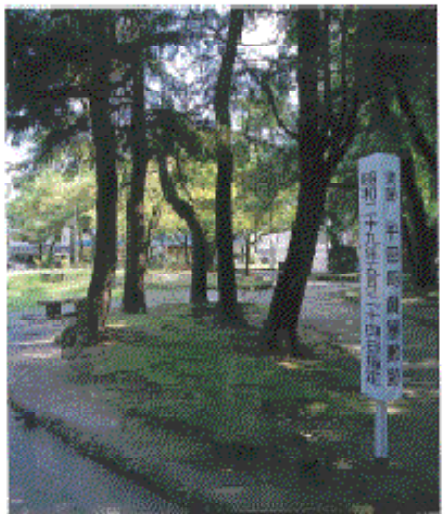
平田靱負屋敷跡

【所　在　地】鹿児島市平之町 6
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 29 年５月 24 日



宝暦年間の木曽川治水工事の際の総奉行で，当時の藩の勝手方家老であった平田靱負正輔の屋敷跡である。

宝暦３（1753）年 12 月，鹿児島藩は幕府から美濃国の木曽川・長良川・揖斐川の治水工事を命ぜられ，藩では勝手方家老であった平田靱負を総奉行とし，千人近くの藩士とその従者を動員し，40 万両にものぼる経費を費して，この大事業を完遂した。

平田靱負は，この事業によって数十名の藩士を犠牲にし，ばく大な借財をして経費をねん出したことの責任をとって，工事完遂の翌日，自刃して果てた（犠牲者を「薩摩義士」という）。

平田靱負の屋敷は，天保年間の城下絵図によると，柿本寺馬場に面し，天保の改革で功績のあった調所広郷の屋敷の前にあたる。また，屋敷続きには，藩の弓術師範の東郷家の屋敷があった。

現在，平田家屋敷跡と推定される地は平田公園となっており，一角には平田靱負の銅像が建てられている。毎年５月には，慰霊祭が岐阜県からの参加者を交えて行われている。